ANNUAL REPORT 2025

今日もここから。



認定NPO法人 Homedoor
2025年度年次報告書

誰もが何度でもやり直せる社会へ。



認定NPO法人 Homedoor

理事長 川口 加奈

ホームレス状態になったとしても、もう一度やり直せる。そもそもホームレス状態にならずに済む。私たちは、そんな社会をつくりたいと考えています。

近年、物価高騰、雇用の不安定化、人とのつながりの希薄化を背景に、「住まいを失うかもしれない」という不安は、もはや一部の人だけのものではなくなりました。だからこそ、Homedoorが描く社会は住まいを失った方のためだけでなく、誰もが安心して暮らせる社会の土台になると信じています。

また、Homedoorでは困窮状態に陥ってからの支援にとどまらず、その手前の段階から、そしてHomedoorを卒業して家を借りた後も、変わらず相談できる仕組みや居場所づくりを大切にしています。

目の前の一人ひとりに寄り添う支援と、社会の構造そのものへの働きかけ。その両方を積み重ねながら、誰もが「ただいま」と言える社会を目指して、これからも活動を続けてまいります。

Homedoor 6CHALLENGES

06 伝える
AWARENESS



05 再出発に寄り添う
RESTART



04 働くを支える
WORK SUPPORT



03 暮らしを支える
LIFE SUPPORT



02 選択肢を広げる
EMPOWER



01 届ける
REACH



Homedoorでは、『6つのチャレンジ』を通じて、ホームレスの人々の路上脱出をサポートしています。
どんな支援が必要とされ、かつ効果があるのか。改善点を毎年洗い出し、真に必要なサポートを生みだす。
その挑戦を『6つのチャレンジ』と表現し、全国で導入できるホームレス支援のモデルケースとなることが目標です。



HOT TOPIC 2025



選択肢を広げる

P09

相談者との面談回数
のべ2,331回



届ける

P07

夜回りで出会った方
のべ770人



再出発に寄り添う

P19

皆さまのご寄付で届ける
『新生活応援キット』



働くを支える

P17

"はたらく"を考える
『ぼちぼちいこか』スタート



伝える

P21

クラファンを通じて
『生育格差』の現状を広く発信



暮らしを支える

P15

新しい暮らしのお守りに



伝える

P21

シェルター住人参加型報告書
『POCO A POCO』発行



暮らしを支える

P16

コーヒーから始まる
支え合いの輪



暮らしを支える

P15

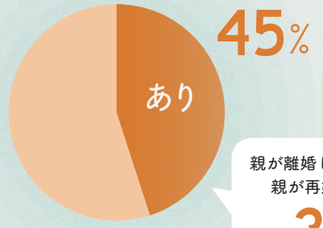
みんなでつくる
アンドベース

FEATURE 01

若者ホームレスと生育格差

近年、ホームレス状態にある若者からの相談が増えています。
その背景にある事情はさまざまで単純に語ることはできません。
しかし、かれらの言葉を受け取るなかで、さまざまな困難が重なり合う実態が見えてきました。
ここでは、10代〜30代の若者たちを取り巻く社会的不利の連鎖についてお伝えします。

FAMILY BACKGROUND
親の離婚を経験

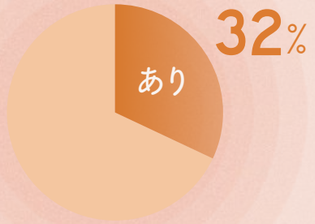


（N=442）

親が離婚した人のうち、親が再婚した割合
33%
（N=201）

親との離別経験や、
親の再婚相手との関係不和に
悩まされたという相談者も少なくありません。

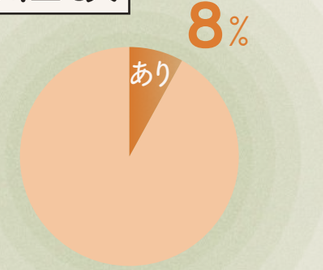
ABUSE/NEGLECT
子ども期の虐待経験



（N=442）

相談者からは
「今でいうネグレクト。親も障害があったので」など、
親自身の困窮がうかがえる語りもありました。

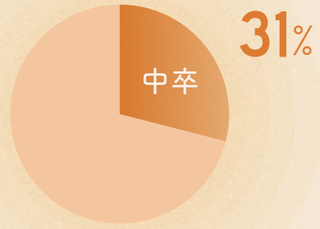
RESIDENTIAL CARE
児童養護施設の利用経験



（N=442）

養護施設は貴重な社会資源ですが、
原則18歳を境に養護から外れ
経済的自立を強いられるという課題があります。

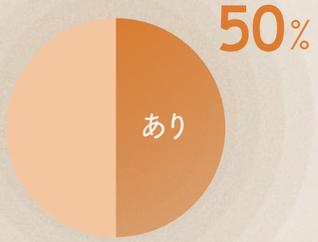
EDUCATIONAL BACKGROUND
最終学歴が中学校



（N=419）

「お金がないので進学は諦めた」という声が多く、
最終学歴が中卒である割合は、
国勢調査にみる同世代と比べて10倍以上となっています。

ADMINISTRATION
行政への相談経験

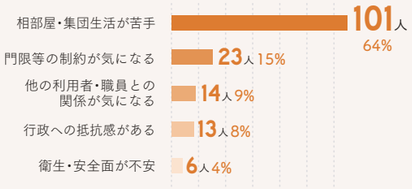


（N=431）

所持金が尽きて大阪市に相談した際、『相部屋の施設に入るしかない』と言われました。対人恐怖症がある自分は、症状が悪化すると思い諦めました。

20代 男性

行政シェルターの利用をためらう理由
（N=157）

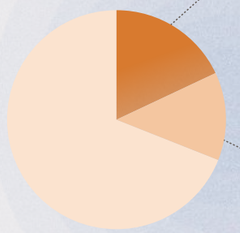




認定NPO法人 Homedoor
相談部門長 **永井 悠大**

困窮する若者からのSOSに向き合うなかで痛感するのは、かれらが幼少期から直面する社会的不利の連鎖です。信頼できる養育者や社会関係が希薄なまま早期の離家を強いられ、不安定就労を繰り返すなかで心身ともに疲弊してしまう。なんとか行政に繋がっても、公的なシェルターの多くは多床部屋であることが多く、精神疾患などに悩まされている当事者にとって安心できる環境にはなっていません。大学在学中の若者からの相談も少しずつ増えており、生活保護を利用しながらの大学進学が認められていないことも、かれらの選択の自由を制限する一因になっているように感じます。年々複雑化する若者ホームレス問題に対し、私たちにできることは何か。これからも一人ひとりの言葉に耳を傾け、より良い支援のありかたを模索していきます。

PUBLIC ASSISTANCE
生活保護について



（N=431）

「実家から大学へ通学していましたが、親からの暴力に耐えられず家を出ました。役所に相談すると、『生活保護を利用するなら大学は辞めるしかない』と言われ、頭が真っ白になりました。

10代 女性

EMPLOYMENT INSTABILITY
不安定就労

「親から『中学を卒業したら家を出なさい』と言われて育ったので、16歳から派遣の寮付就労を転々としてきました。契約が切れたり仕事を辞めると寮を出なければいけないので、どんなに労働条件が悪くても我慢して働き続けました。16時間勤務が続いたり、月に休みが2日しかないこともざらでした。誰も頼れない孤独感と過労からか、『死んだ方が楽かもな』と思うこともありました。今振り返ると、うつ状態だったと思います。

30代 男性

※本ページのデータは、2023〜2025年にHomedoorへ新規で来所した10〜30代の相談者を対象に集計しています。



夜回り活動

路上生活者数は減少傾向にある一方で、高齢化が深刻な課題です。路上生活が長期化するほど、生活環境を変える心理的なハードルは高まります。Homedoorでは、夜回り活動で信頼関係を築き、「支援を受けてみよう」と思えるきっかけづくりに取り組んでいます。

夜回りで出会った人数

のべ **770** 人



WEB広告・SNS広告の活用

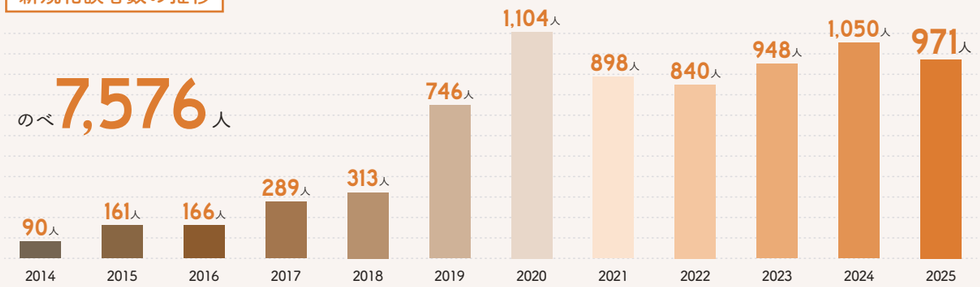
若者ホームレスへのアウトリーチ強化を目的に、助成金を活用してGoogle広告やSNS広告を実施しました。支援を必要とする人へ情報を届け、困ったときに相談先を思い出してもらえるよう、認知向上に取り組んでいます。

広告の表示件数

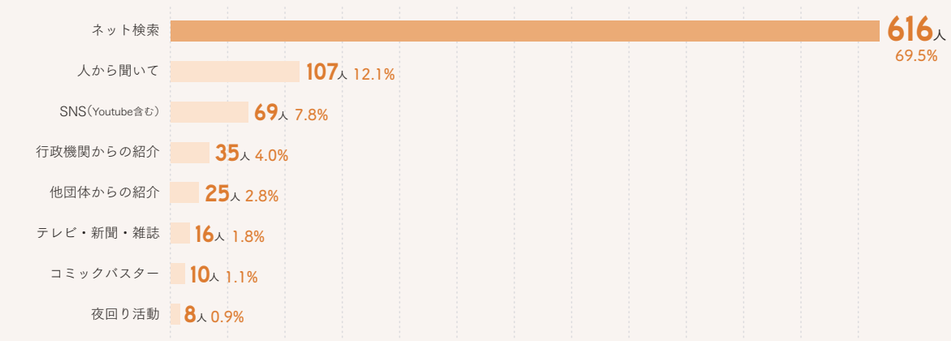
約 **61** 万回

データでみる 2025年度

新規相談者数の推移



Homedoorを知ったきっかけ（N=886）



01 REACH

ネットカフェなどを転々とする『若者ホームレス』の人々が増える今、インターネット上でのアウトリーチに力を入れています。また、高齢化する路上生活者との関係性を維持し支援に繋げるため、夜回り活動も継続しています。



届ける



相談対応

電話・メール・来所で相談を受け付けており、月間の相談件数は100件を超える状況が続いています。相談者一人ひとりの状況を丁寧に伺いながら、適切な選択肢をともに考えています。行政窓口や病院への同行など、相談ボランティアの皆さまにも日々ご協力いただいています。

来所相談者数（新規のみ）	面談回数（新規のみ）
297人	2,331人



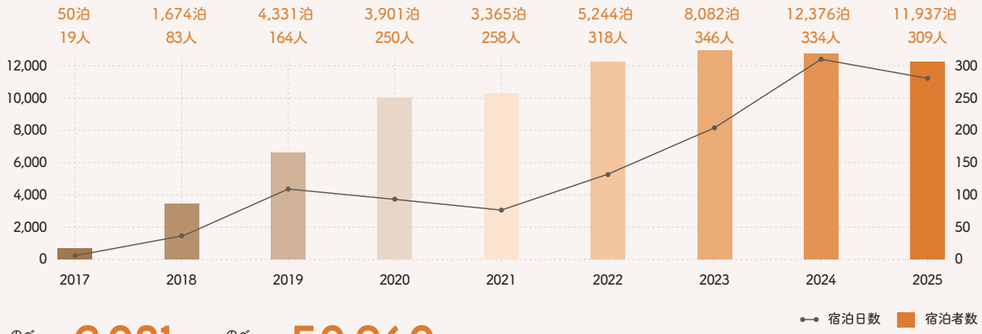
宿泊対応

相談員による面談後、その日のうちに宿泊いただくことが可能です。会社の寮や住んでいた家を追い出された方など、着の身着のままいらっしゃる方も多いため、寄付でいただいた衣服や洗面用具もお渡ししています。次の一歩を踏み出すまでの再出発の拠点を提供しながら、生活や就労のサポートを行っています。

アンドセンター宿泊者数	アンドベース宿泊者数
265人 4,390泊	36人 7,530泊

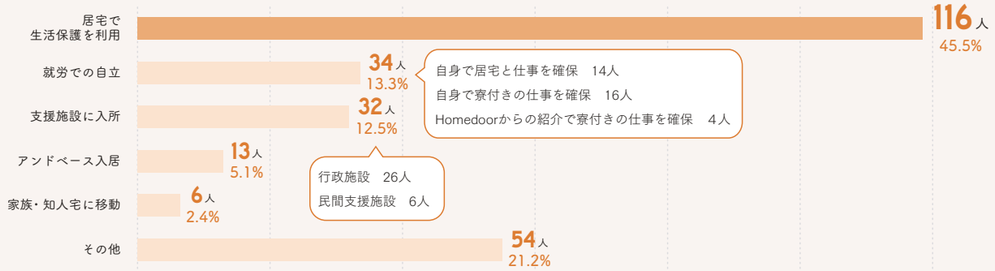
データでみる 2025年度

年間宿泊者数の推移



のべ宿泊者数 2,081人　のべ宿泊日数 50,960泊

アンドセンター宿泊後の経過（N=255）

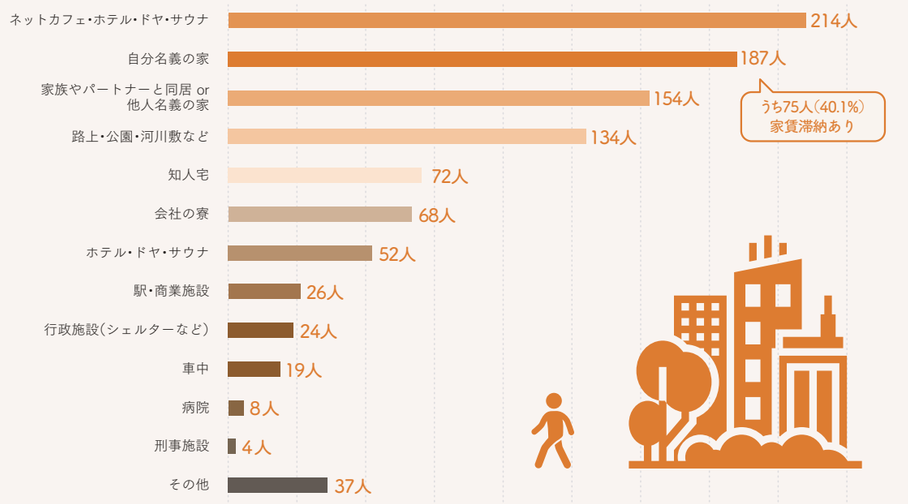




データでみる 2025年度

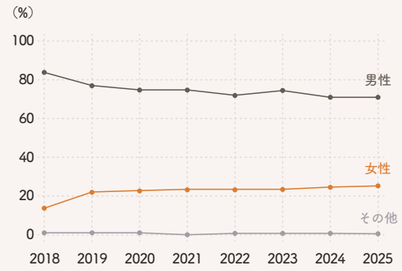
相談者の多様化が進むなか、2025年度は若年層からの相談がさらに増え、女性相談者の割合も上昇しました。Homedoorに寄せられた相談データから、相談者の属性や生活状況、そこから見えてくる課題についてご紹介します。

相談時の起居の場



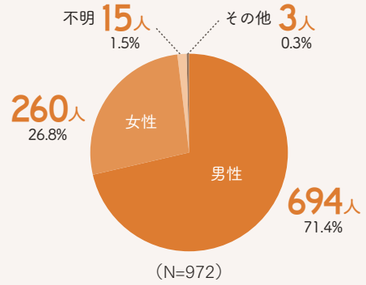
ネットカフェなどで生活する人からの相談が2024年度に引き続き最多となり、全体の約22%を占めました。

性別割合の推移



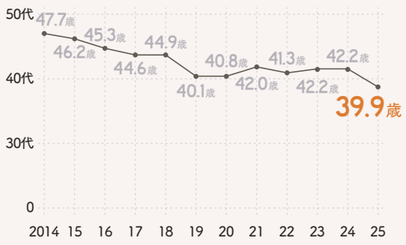
女性の相談者は年々増加傾向にあり、
2025年度も前年度に続いて全体の25%を超えました。

性別



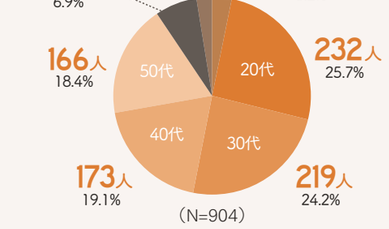
女性の相談割合が昨年より1.5ポイント増加し、
過去最高となりました。

平均年齢の推移



相談者の若年化が少しずつ進んでおり、
2025年度の平均年齢は初めて40歳を下回りました。

年代の割合



10代の相談者は29人となり、2024年度の約2倍に増加。
相談者の若年化が進む一方で、幅広い年代からの相談にも対応しています。

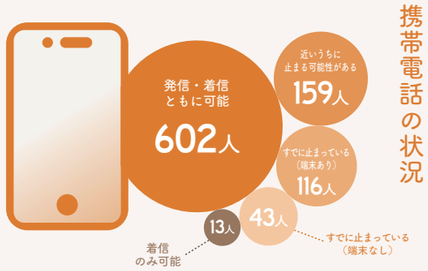
無料インターネット電話からの相談対応

フリーWi-Fiを利用した相談が増えていることを受け、Homedoorでは3年前からインターネット電話を導入しています。ウェブサイトからワンクリックで相談員につながるため、支援を必要とする人へ迅速につながるための、欠かせないツールとなっています。

無料インターネット電話からの相談件数

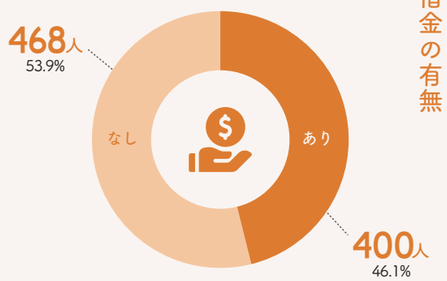
のべ **52**件

携帯電話の状況



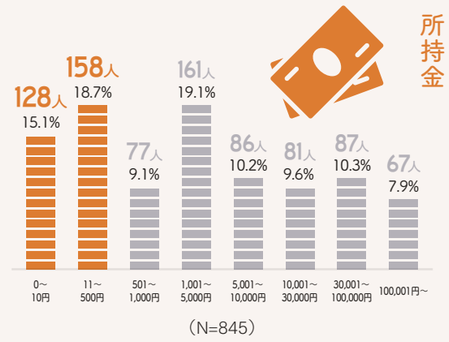
携帯端末を所有していない人の割合は4.6%と低く、
多くの相談者が携帯端末を所有していることが分かりました。

借金の有無



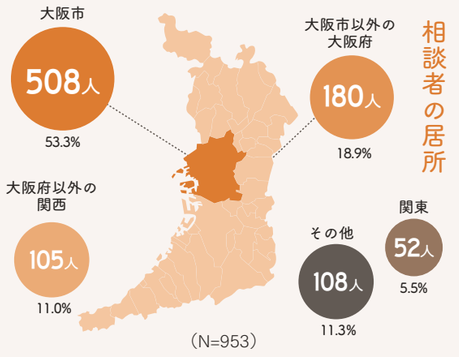
生活費のために借金をしているケースも多く、
困窮をさらに深刻化させています。

所持金



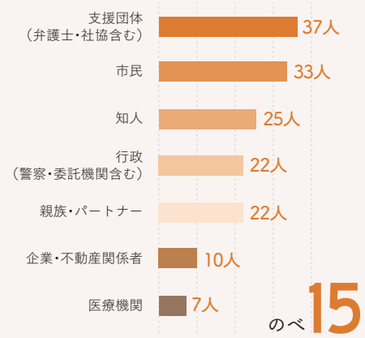
所持金が10円以下の人は128人、
11~500円の人は158人にのぼりました。
極限の状態まで相談につながれない状況がうかがえます。

相談者の居所



2024年度と同様に、大阪市内からの相談が半数以上を占める一方、
42の都道府県から相談が寄せられました。
海外からの相談も2件ありました。

情報提供・本人以外からの相談数(相談元)



のべ **156**人

連携する支援団体からの相談や、路上で見かけた
ホームレス状態の人を支援につなぎたいという相談が寄せられました。

Homedoorが運営する3つの施設



01 アンドセンター
ANDCENTER

１階にはHomedoorの事務所と団らんスペース、2〜5階には短期滞在用の個室が18部屋（ユニットバス付き）あるほか、ホームレスの人々が利用できるシャワー室や洗濯機があります。相談前の方でも気軽に立ち寄り、安心してゆっくり過ごせる居場所としても機能しています。



年間利用者数	シャワー利用	洗濯機利用
2,699人	156回	84回





02 アンドベース
ANDBASE

アンドセンターでの滞在を経て、長期的な支援を希望された方が利用する施設です。24部屋の個室を備えた5階建ての施設で、女性専用フロアやキッズスペースも準備しています。自分らしい暮らしや働き方をともに考え、新たな一歩を踏み出せるよう、さまざまなプログラムを実施しています。

20代・入居中 女性

個室でゆっくり過ごせるので、自分らしい生活を取り戻すことができました。また、困った時には相談できる職員がいるので、安心して生活することができています。

40代・卒業生 男性

「帰る場所」ができたことで、次の生活に向けた目標を持つことができました。アンドベースを卒業した今では、就職をして自分らしい生活を送ることができています。

03 おかえりキッチン
OKAERI KITCHEN

コロナ禍の2021年に開店したカフェ「おかえりキッチン」が5周年！
Homedoor初の飲食店経営は苦戦の連続でしたが、地域の皆さまや元相談者の常連さんに支えられ、誰もが気軽に立ち寄れる居場所へと育ってきました。



食事提供数（朝/昼/晩）	おかえりキッチン売上
6,413食	約280万円

一般のお客様向けにも営業を行い、その収益を無料で食事提供するための費用に充てています。



03 LIFE SUPPORT

暮らしを支える

3つの拠点を軸に、ホームレスの人々、宿泊者、元相談者など、さまざまな状況にある人たちがほっと安堵できる居場所を目指しています。それぞれのニーズに応じたプログラムや機能を提供し、ゆるやかなつながりを育んでいます。

3施設の

HOT TOPIC 2025

暮らしを支える3つの施設。
ここでは、2025年度にスタートした取り組みをご紹介します！

アンドセンター

新しい暮らしのお守りに

アンドセンターの強みは迅速な支援。そのため、日々の会話は生活や就労に関する緊急的なものが中心となります。そこで、気軽に雑談できる時間や場所があることで、より安心して過ごしてもらえるのではないか、そんな思いから宿泊者が集う場「お茶会」がスタートしました。相談員以外の事務局スタッフも参加し、入居者との交流を深めています。ここで過ごした時間や人とのつながりが、それぞれの新しい暮らしを支える『お守り』のような存在となることを願い、地域での暮らしにつながる支援を続けています。



アンドベース

みんなでつくるアンドベース

じっくりゆっくりの支援を強みとするアンドベース。ここで生活されている方の多くは、キャリアや将来について考える余裕もないままに、精神的にもギリギリの状態で暮らしてきた方です。ここでの生活を通じて、今後の暮らしの土台を築けるよう、さまざまなサポートを行っています。定期面談を通じて本人の希望を伺い、必要な福祉制度や医療につなげるほか、生活支援や就労支援にも取り組んでいます。また、相談員が企画するさまざまなプログラムを通じて、スタッフや入居者同士の交流も生まれています。



料理プログラム

施設内の共用キッチンを活用した料理プログラムを行いました。ある日は、20代の入居者のリクエストで、ハンバーグづくりに挑戦。連携する支援団体の方々も駆けつけてくださり、みんなで調理や食事を楽しみました。入居者の中には、実家で家事を教わる機会が乏しく、炊事や洗濯、金銭管理といった生活スキルに自信がない方もいます。生活を通して、自分の得意・不得意に気づき、身につけたいことが見つかれば、まずは一緒にやってみる。それができるのも、アンドベースの魅力です。

外出プログラム

お花見をしたり、東大寺を訪れたりと、外出プログラムも行いました。開催当初は、入居者が顔なじみの相談員と会話することが中心でしたが、回を重ねるごとに入居者同士のゆるやかなつながりも生まれていきました。気づけば、入居者同士の会話から生まれた「○○に挑戦してみたい」を次のプログラムに設定するなど、相談員が企画するものから、みんなでつくるものへと少しずつ変わっていきました。今いる入居者が、今のアンドベースを形づくっていく。アンドベースは、暮らしの拠点であるとともに、自分を知り、これからの生活を築いていくための出発点にもなっています。

おかえりキッチン

コーヒーから始まる支え合いの輪

「ホームレスの人たちにコーヒーを」。そんなあたたかい思いが込められたキャンペーンが、おかえりキッチンではじまりました。

このキャンペーンでは、お客様に1杯分のコーヒー代（450円）をご寄付いただくことで、Homedoorに集うホームレス状態の方々へ5杯分のコーヒーを届けることができます。

実はこのアイデアは、アンドセンターの団らんスペースで8年以上にわたり受付を担当しているスタッフから生まれました。日頃から、団らんスペースに集うホームレスの人々が「コーヒーを飲みたいな」と話している姿を見て、「何かできないだろうか」と考えていたそうです。そこで、海外で広がる「サスペンディッドコーヒー」の取り組みをヒントに、このキャンペーンが誕生しました。

取り組みは少しずつ広がり、常連のお客様や、SNSでこのキャンペーンを知って来店してくださったサポーターの方々が、さっそくコーヒーギフトに参加してくださっています。どなたでも気軽に足を運べるカフェだからこそ、ホームレス問題を知っていただくきっかけをつくることができ、「応援したい」という思いをその場で届けていただくこともできます。

これからも、おかえりキッチンは、あたたかいごはんや飲み物を通じて、安心して過ごせる時間や地域とのつながりを感じてもらえる場所を目指し、日常の中で支え合いが自然に循環する仕組みづくりに取り組んでいきます。







働く 機会を提供する

相談者の状況に応じて、日払い・月払い、単発・シフト制など、さまざまな働き方に対応した仕事を提供しています。自団体で雇用することで、一人ひとりの事情やペースに合わせた柔軟な就労機会をつくり、生活の安定や次の一歩につながるよう支援しています。

仕事提供者数 65名

仕事の提供種類 10種類

STEP1 はじめの一歩となる仕事

まずは短時間・単発の仕事から、無理なく働く経験を積む

HUBchari トラック横乗り / バッテリー交換

ポート数	交換本数	給与総額
695ポート	16,661本	1,629万円

電動自転車のバッテリーを交換するだけなので、誰でも取り組みやすい仕事です。すぐに働き始められるため、携帯電話代や面接へ行く交通費など、新生活に必要な資金を準備する機会となっています。

STEP2 安定した収入につながる仕事

自分のタイミングで働きながら、継続的な収入を得る

- HUBchari ポート設置調査 / ポートケア
- アンドセンター/アンドベース 施設内清掃
- 民間企業からの委託業務 マンション管理

宿泊施設内の清掃や退去後の居室清掃を就労機会として提供しています。働くことに不安を抱えていた方も、自分のペースで働ける仕事を通じて少しずつ自信を取り戻し、次のチャレンジにつながっています。

STEP3 次の就労につながるシフト制の仕事

決まった時間に働く経験を積み、一般就労への準備を進める

- HUBchari トラック運転 / 貸出受付
- おかえりキッチン 調理・接客業務
- 民間企業からの委託業務 駐輪場管理

店長や就労支援員が見守る環境で働けるため、日々の業務を通じて自信を深め、働き続ける自信につながっています。また、一人ひとりに合った働き方を見つけ、一般就労への準備を進める機会となっています。

働く 準備を支える

働くことに不安を抱えている方に向けて、就労に向けた準備のためのプログラムを実施しています。生活リズムや対人関係を整え、働くことへの不安を少しずつ和らげながら、一人ひとりが自分のペースで次の一歩を踏み出せるようサポートしています。

新規求人件数 21件（累計130件）

就労面談件数 95件

HOT TOPIC 2025



プログラム『ぼちぼちいこか』

プログラム名の由来は絵本『ぼちぼちいこか』から。仕事を提供するだけでは解消しきれない、働くことへの不安や焦りに寄り添うための取り組みです。『働く』ことへの不安や焦りを語り合い、その感情を和らげる工夫を考えるグループワークと、おかえりキッチンでの就労体験を組み合わせて実施しています。これまでの働き方や考え方を一度立ち止まって見つめ直し、自分のペースや余白を大切にしながら『これから』を考える場として、月1～2回開催しています。参加者同士やスタッフとの対話を通じて、多様な価値観や経験に触れ、自分らしい働き方を見つける機会となっています。

04 WORK SUPPORT

働くを支える



身分証や電話がなくても働ける機会を提供し、一時的な生活費の確保だけでなく、仕事を通じたつながりを大切にしています。孤立しがちなホームレスの人々が、人やコミュニティとのつながりを得て意欲を取り戻していく上でも、仕事は重要な役割を果たします。

引越しサポート

相談者は連携している不動産会社を通じて住まいを確保し、Homedoorの施設から新たな住居へと引っ越しされます。少しでも安心して新生活をスタートできるよう、生活保護の申請同行や関係機関との連携、引っ越し後の生活サポートも行っています。さらに、引っ越し後すぐに生活を始められるよう、食料や新生活応援キットをお渡しするなど、一人ひとりの状況に寄り添ったサポートを続けています。





新生活応援キット

生活保護費の支給や給与が入るまでに必要な
日用品・衛生用品などを提供しています。



卒業生フォロー

アンドセンターやアンドベースから引っ越した後も、Homedoorとのつながりは続きます。引っ越し後は定期的な連絡や１か月後面談を行い、新しい生活を見守っています。また、『アンドフェス』などの交流イベントを定期的に開催し、卒業後の交流の機会も設けています。他にも、土曜日の昼食づくりやお菓子づくり、夜回り活動のボランティア、おかえりキッチンへの来店など、卒業生が活動に関わる場も多くあります。卒業後も一人ひとりの暮らしに寄り添いながら、時には活動を手伝ってもらいながら、時間を共にしています。



誰でもスマホ

通信困窮者も契約できる誰でもスマホで、就労や行政手続きに欠かせない『連絡先』の確保をサポート。





おかえりチケット

アンドセンター・アンドベースの利用者にお渡ししている、引っ越し後に『おかえりキッチン』で無料の食事やドリンクを楽しめるチケットです。スタンプラリー形式で、1か月後、3か月後など定期的に来店していただくことで、近況をうかがいながら、引っ越し後もゆるやかなつながりを続けています。

チケット配布数	チケット利用数
142枚	87枚

再出発に寄り添う

シェルター退所はゴールではなく、新しい暮らしのスタートです。退所後の生活が相談者の希望に近づくよう、再出発の支援をしています。引っ越し後も困ったときに頼れる存在であり続けられるよう、継続的なつながりづくりにも力を入れています。

講演登壇数

32回

メディア出演数

10回

クラファンを通じて『生育格差』の現状を広く発信



生育歴に関する調査では、「10〜20代の若年相談者の83％が、子ども期に虐待や親との死別、離婚による生活困窮などの社会的不利を経験している」ことが明らかに。こうした若年相談者を長期的に支える『アンドベース』の運営継続に向けて実施したクラウドファンディングでは、1,031人もの方々から応援いただきました。本当にありがとうございました！

アンドベース入居者と一緒に制作！報告書『POCO A POCO』発行



「スタッフ目線ではなく、入居者の視点からホームレス問題や支援を振り返る報告書をつくりたい」。そんな思いから、スタッフとアンドベース入居当事者が一緒にディスカッションを重ね、『ＰＯＣＯ Ａ ＰＯＣＯ』を制作しました。これまでの生活や利用している支援について、のべ12時間にわたり議論を実施。さらに編集会議を行い、内容・構成はもちろん、表紙やイラストも参加者の意見をもとに制作しました。タイトルは参加者のアイディアをそのまま採用しています。参加者からは「ここまで自分のことを話したり人の話を聞くのは初めてだったので、とても貴重な経験になりました」などの感想があり、読者からも「読んでいて一人ひとりの声が聞こえてくるようだった」「続編を期待します」など、大きな反響をいただきました。

06 AWARENESS

ホームレス問題は今なお自己責任論で片付けられることも多く、その背景にある構造的な課題を社会に伝え続ける必要があります。昨年は、相談者の生育歴に関する調査結果や当事者主体の発信など、多角的な方法で情報発信を行いました。



伝える

FEATURE 02

アンドベース入居者インタビュー

アンドベース開設から3年。これまでに、のべ68人が利用しました。
高校卒業後に住まいを失い、Homedoorへ相談してから10か月が経過したゆずさん（仮名）。
少しずつ自分のペースを取り戻しつつある今の思いを、相談員の浦越がお聞きしました。



「自分のペースで進んでもそう思えるようになった。」

浦越　相談することになった背景を教えてください。

ゆず　18歳までは実家で暮らしていました。大学進学は家庭の経済的事情で諦めたのですが、就職先が決まらないまま高校卒業となり、ハローワークに通いましたがうまくいかず…。心が折れて引きこもってしまいました。スキマバイトや派遣の仕事はしていましたが、まともに働いていないことを父親から責められることが増え、「この日までに仕事が決まらなかったら出て行け」と言われました。幼い頃から父親に叩かれることが多く恐怖心もあり、仕事が決まらないまま家を追い出されました。

浦越　家を出た後は？

ゆず　スキマバイトをしながら、主にネットカフェで生活していました。しかし収入が不安定で、夜はファーストフード店の1杯150円のコーヒーで朝まで粘り、昼間は商業施設のベンチでうとうとするような生活でした。色々な意味でギリギリな状態で、感覚も麻痺しておかしくなっていたと思います。さらに携帯も止まってしまい、働くこともできなくなって、フリーWi-Fiを拾ってHomedoorにメールで連絡し、インターネット電話で相談しました。携帯が止まっていても通話できるんだって、その時ちょっとびっくりしました。

浦越　メールで「死ぬしかない」と書かれてましたよね。

ゆず　もう極限でした…。相談メールを送って、その日のうちに返事が来なかったら死のうと思っていました。

その日のうちに返事が来なければ、死のうと思っていました。

浦越　Homedoorへの相談を決めた理由は？

ゆず　いろいろな支援団体を調べて、私の年齢だとここしかないって思いました。口コミを見ると、幅広い年齢層の人や女性が相談に来てるんだなって思いました。行政に相談すると家に戻されちゃうんじゃないかという心配があったので、Homedoorで相談できて、すごくすごく助かりました。



アンドベースの室内の様子

安心できる居場所が、未来を考えるきっかけに。

浦越　アンドセンターに宿泊後、一人暮らしの経験がなかったことからアンドベースへの入居を提案しましたね。

ゆず　初めての一人暮らしだったので不安が大きかったです。でもアンドベースなら困った時に相談できる人がいて、生活のサポートもあるので安心感がありました。

浦越　生活してみてどうですか？

ゆず　やっぱり、ゆっくり寝られる自分の部屋があるっていいなって。それから、お金や時間の使い方を自分で考えられるようになりました。以前は「今日を乗り切れたらいい」という感じでしたが、今は一か月先を考えて生活できるようになっています。外にいた時や実家にいた時と比べると、自分で稼いだお金で生活をしているっていうのは、ちょっとだけ一歩、前に進めてるのかな。

浦越　ゆずさんにとってアンドベースはどんな場所ですか？

ゆず　一人じゃないと思える場所です。他の入居者と挨拶したり、たこ焼きパーティーとかのイベントで楽しくワイワイすることもあります。スタッフの皆さんにも本当によくしていただいています。

浦越　お仕事のことでは、まずはおかえりキッチンで働いてみながらゆずさんに合う働き方を一緒に考えていきませんかと、昨年10月にお声がけしましたね。

ゆず　一つの職場で長く働いた経験がほとんどなかったので、私にとっては挑戦でした。接客も得意ではなかったんですけど、オーダーやレジ打ちもできるようになり、楽しくなってきました。自信にもつながっています。

浦越　ラテアートにも挑戦していますね。

ゆず　高校生の頃からカフェが好きで、カフェで働くことにも憧れていました。そういう学校の資料請求もしてはいたものの進学は諦めたので、色々あったけれど、結果的にやりたかったことにつながっていて嬉しいです。



挑戦中のラテアート

浦越　気持ちの変化はありましたか？

ゆず　すごくありました。最初は早く正社員の仕事を見つけなきゃと焦っていましたが、スタッフの皆さんと話す中で気持ちがまろやかになりました。「自分のペースで進んでもいいのかな」と思えるようになりました。

浦越　どんな話からそう思えるように？

ゆず　山本店長やアンドベース施設長の荻野さんたちが、ちゃんと私のことを見て褒めてくださったり、アドバイスしてくださったりして、それが心に刺さりました。また、おかえりキッチンには元相談者の方が遊びに来ることがあります。その姿を見ると、「私もいつかああなれるかもしれない」と思えて励みになります。

浦越　ゆずさんが最近取り組んでいることはありますか？

ゆず　就職活動です。荻野さんと「ぼちぼちいこか」という就労支援のプログラムに2月から参加しています。プログラムでは、他の参加者の話を聞いて、自分以外の考え方を知ることができるのはいいことだなって思います。似たような境遇から集まっている人たちなので、不安を共有し合えるし、思ったことを包み隠さず話せます。

浦越　これから挑戦したいことは？

ゆず　資格を取ってみたいです。何か一つやり遂げて、自信につなげたいです。

浦越　おかえりキッチンを半年以上続けられているというのも、一つもうやったぞって言えることだと思います。今後の夢はありますか？

ゆず　一人暮らしをした時に大好きな猫を飼えたらいいなっていうのが、ちょっとした目標です。そういう癒しのために頑張るのもいいのかなって。

浦越　猫と暮らす、いいですね。そういう生活したいなっていうところから、どんな風に仕事をしていくかなども考えられますしね。

ゆず　はい、楽しみです！



会計報告 ― いただいたご支援を大切に活用しました

活動計算書 （15期：2025年4月1日～2026年3月31日）

（単位：円）

				14期	15期	前年度比
経常収益	受取寄付金	受取寄付金		66,268,467	116,778,182	176%
	受取助成金	受取助成金・補助金		8,036,663	19,487,068	242%
	事業収益	事業収益		186,604,814	193,429,094	104%
		受託事業収益		9,035,472	8,370,839	93%
	その他収益	受取利息		44,696	232,923	521%
		雑収益		11,100,000	133,278	1%
	経常収益　計			281,090,112	338,431,384	120%
経常費用	事業費	1.人件費	スタッフ人件費	62,659,484	65,267,291	104%
			臨時雇用賃金	10,895,864	12,094,250	111%
		2.その他経費	業務委託費	1,398,879	1,629,660	116%
			印刷製本費	679,957	715,839	105%
			旅費交通費	1,177,665	1,456,486	124%
			通信運搬費	1,908,920	2,551,334	134%
			消耗品費	7,038,713	5,916,059	84%
			水道光熱費	6,778,004	6,669,197	98%
			地代家賃	8,775,600	8,775,600	100%
			修繕費	608,550	670,523	110%
			減価償却費	11,592,601	11,153,840	96%
			租税公課	9,589,550	10,655,550	111%
			支払手数料	136,875,172	162,416,482	119%
			その他	4,107,885	4,877,288	119%
		事業費　計		264,086,844	294,849,399	112%
	管理費	1.人件費		2,395,050	2,197,654	92%
		2.その他経費		3,733,393	1,996,719	53%
		管理費　計		6,128,443	4,194,373	68%
	経常費用　計			270,215,287	299,043,772	111%
経常外収益				0	285,400	-
経常外費用				0	28,540	-
法人税、住民税及び事業税				70,000	70,000	100%
当期正味財産増減額				10,804,825	39,574,472	366%
前期繰越正味財産額				411,827,410	422,632,235	103%
次期繰越正味財産額				422,632,235	462,206,707	109%

15周年という節目に挑戦したクラウドファンディングでは、1,000人を超える方々からご支援をいただき、目標を達成することができました。

日本財団および大阪府福祉基金より、若年層を中心とした生活困窮者への支援活動への助成をいただきました。

HUBchari事業の売上高は増加した一方で、運営コストも増加したため、収益は減少しました。

就労支援の一環で雇用する方々の賃金を計上しています。2025年度は雇用枠を拡大することができました。

年次報告書に加え、アンドベース利用者と一緒に制作した報告書『POCO A POCO』を発行しました。

相談者へお渡しする食料や衣類などを多くの方々からご寄付いただいたことで、物品購入費を抑えることができました。

取得した物件（アンドベース）の1年分の減価償却費です。

HUBchari事業の運営費（手数料）およびクラウドファンディングに係る手数料が増加しました。

当期の正味財産増減額は、ご寄付や助成金の増加によりプラスとなりました。一方で、保有するアンドベースを今後も維持・運営していくためには、継続的な資金確保と将来の修繕に備えた積立が必要です。2026年度はそのための備えを進めるとともに、こうした活動を支えてくださる寄付会員の輪を広げていきたいと考えています。

総会で承認を受けた財務諸表を一部金額をまとめて表記しています。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、
特定非営利活動法人Homedoorの活動を正しく示していることを認めます。



顧問税理士
准認定ファンドレイザー
中山 麻衣子



Homedoor
監事
杉浦 元

皆さまからのあたたかい
ご寄付や助成金など
活動資金を大切に管理しています。



Homedoor
経理担当
亀井 有子

THANK YOU FOR SUPPORT

Homedoorは、多くの企業さまから応援いただいております。

イトマン株式会社

イノベイジア株式会社

大阪ガス株式会社

株式会社キットウェル

クローム・インダストリーズ・ジャパン合同会社

コストコホールセールジャパン株式会社

JPモルガン・チェース

塩野香料株式会社

株式会社ジンズ

大和リース株式会社

てつたろうソーシャルプロジェクト

ドクターブロナー

名古屋宗次ホール

日本郵便株式会社近畿支社

株式会社モンベル

有限会社矢野設備

株式会社LIFULL

リコー社会貢献クラブ・FreeWill

昨年、Homedoorの活動現場を拝見し、ホームレスの人々の命を守り、人生の立ち直りのための支援を続ける皆さまに深い敬意を抱きました。スタッフの皆様の笑顔あふれた事務所、2棟の無料宿泊施設、カフェなど、見せていただいた施設は驚きの連続でした。最後に、川口理事長が18歳で夢を描いたスケッチを手に記念写真を撮りました。日本に、このような崇高な思いを持ち続け、社会に価値ある活動を届けている人や団体が存在することに、大きな希望を感じています。これからも、皆さまの活動を物心両面から応援させていただきます。

NPO法人イエロー・エンジェル
理事長 **宗次 徳二** さん



SPREADING OUR MESSAGE

2025度も多くのメディアで紹介いただきました！

Forbes JAPAN

「ソーシャルR&Dを実装するNPO50」に選出

複雑化する社会課題に対し、多様な手法で変化を生み出している団体として選出されました。



週刊東洋経済



「本当にすごいNPO」に選出

行政の手が届きにくい深刻な社会課題に革新的なアプローチで挑む団体として選出されました。

NHK



「クローズアップ現代」出演

「スポットワークで食いつなぐ若者の貧困」に取り組んでいる団体としてご紹介いただきました。

朝日放送テレビ



「news おかえり」出演

「アンドベース」での生活再建に向けた歩みや取り組みを特集いただきました。

さまざまな方法でご支援ください！

ご家庭にある物品で

モノギフト MONOGIFT

ご家庭で不要になった食品や家電を、新生活へのギフトにお贈りください。

モンベルポイントで

mont-bell

モンベルカード作成でお買い物金額の３％が寄付に。ポイントでも応援できます。

Amazon ウィッシュリストで

こちらで提供中 amazon

今、支援で必要な物品リストを公開中！お持ちのアカウントですぐに購入できます。

電気で

TERA Energy

電力会社を切り替えるだけで、電気代はほぼそのまま、料金の一部が寄付に。

読み終えた本で

つなど書店

不要になった本を着払いで送ることで、買取金額を寄付することができます。

Yahoo!ネット募金で

YAHOO! JAPAN ネット募金

Yahoo!ネット募金に参加しています。コード決済やポイント等でもご寄付いただけます。

＼アンドベース3,000人サポーター募集中！／

サポーター（寄付会員）数

現在 2,062人 / 目標 3,000人

（2026年７月１日）

2023年に誕生した「アンドベース」では、生育格差に苦しむ若者たちをはじめ、長期的な見守り支援を必要とする母子・父子世帯や高齢者など、多様な背景を持つ人々が生活再建を目指しています。誰もが安心して立ち止まり、人に頼り、再び歩き出せる居場所を守り続けるため、3,000人のサポーターを募集しています。

サポーター会員になるには

クレジットカード決済で

ウェブサイトから
ご希望の口数をお選びいただけます。

口座振替で

お電話もしくはメールにてご一報いただけましたら、口座振替申込書を送付させていただきます。

Mail：info@homedoor.org
Tel：06-6147-7018

すでにサポーター会員の方は…

サポーター口数アップで応援

月3,000円以上の応援で、相談者が専門の相談員によるカウンセリングを受けたり、Homedoorの宿泊施設に滞在したりすることができるようになります。ぜひ毎月のご寄付の口数UPで、さらなるお力添えをお願いいたします。

好きな金額で寄付したい方は…

単発のご寄付で応援

ウェブサイトよりクレジットカード決済が可能です。銀行振込をご希望の場合は、以下の口座までお振込ください。お振込後は、ウェブサイトのフォームよりご住所等の情報をご入力ください。

三井住友銀行 梅田支店(127)
口座番号：8928985（普通）
口座名：特定非営利活動法人Homedoor

Homedoorへの寄付は、寄付金控除の対象で、最大40%が戻ってきます。

住民税と所得税が、税控除の対象に！

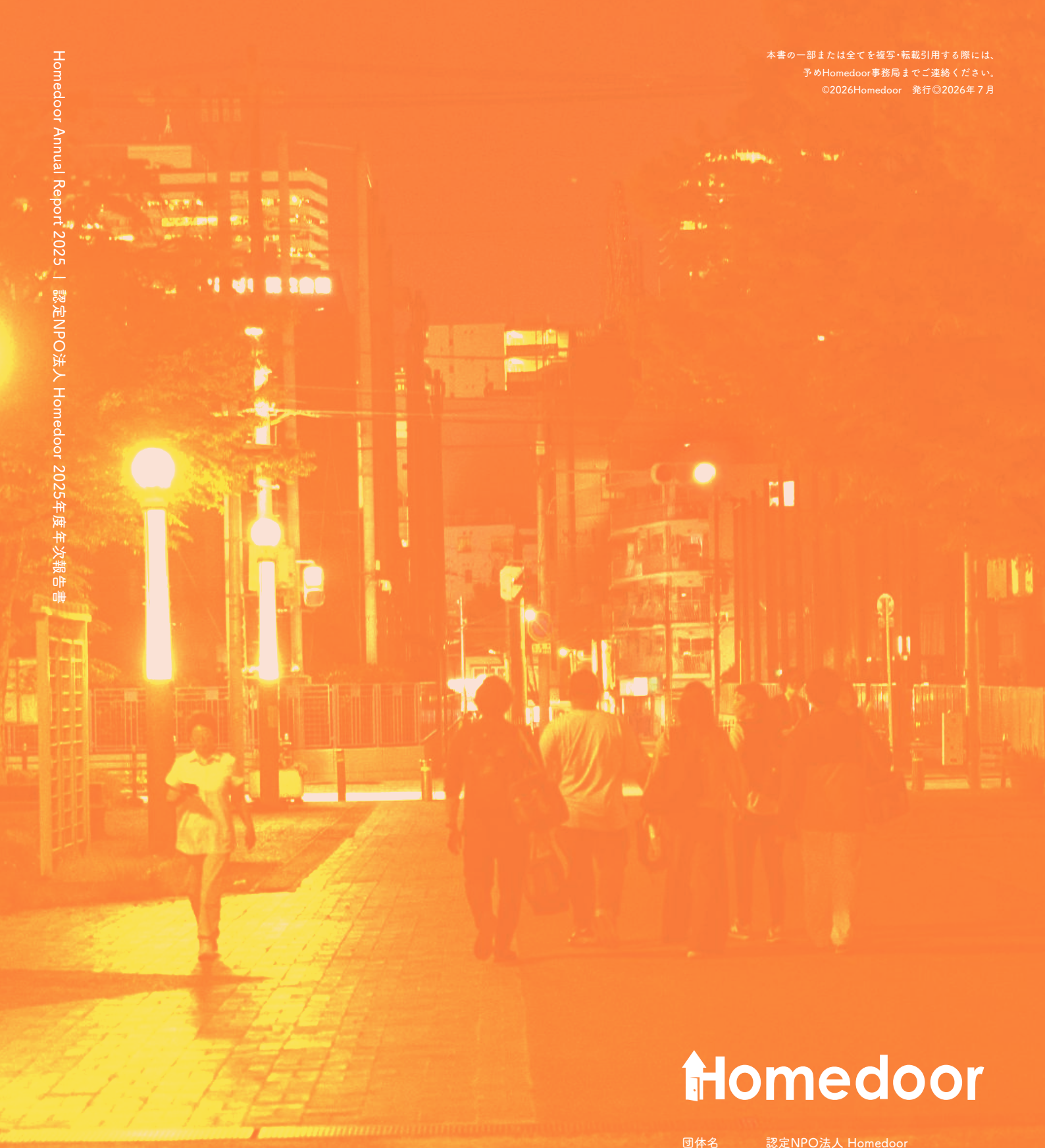
認定NPO法人への寄付には税控除の対象になります。確定申告で、寄付額の約40%が所得税と住民税から控除されます。



（例）大阪市にお住まいの方が
年間30,000円の寄付をした場合… **12,320円** が控除になります。

所得税（30,000円-2000円）×40%=11,200円　住民税（30,000円-2000円）×4%　=1,120円

本書の一部または全てを複写・転載引用する際には、
予めHomedoor事務局までご連絡ください。
©2026Homedoor　発行◎2026年７月



Homedoor

団体名	認定NPO法人 Homedoor
所在地	〒531-0074 大阪市北区本庄東1-9-14
設立	2010年４月（2017年１月 認定NPO法人に認定）
Tel	06-6147-7018
Mail	info@homedoor.org
役員	理事長：川口 加奈
	理事：岩田 真吾、松本浩美、安渕 聖司
	監事：杉浦 元、河浪 潤
スタッフ	事務局スタッフ 16名
	おかえりキッチンスタッフ 4名
	ボランティア登録者 2,676名
	相談ボランティア 79名

www.homedoor.org